

新たな歴史館の創造をめざして ～ 長野県立歴史館の使命と目標 ～
平成30年度(2018年度)評価表

評価の区分
A 目標を上回る成果をあげた
B ほぼ目標は達成した
C 目標には及ばなかった
D 目標には遠く及ばなかった

基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考
使命	県立歴史館は、長野県の歴史に関する調査研究に基礎をおきながら、埋蔵文化財(考古資料)、歴史的価値ある文書等の歴史資料の収集・整理・保存を通じて、県民の歴史遺産を子孫に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、未来を展望し、また学び、憩い、交流する場としての役割を果たします。						
長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取組をします	埋蔵文化財、文献史料、歴史資料等を収集し、調査研究を行います	○ 2019年度企画展(25周年記念事業)の資料調査 ・各企画展の基本設計の作成 ・展示資料の確定	・開館25周年特別企画「土偶展」の国宝調査・借用交渉完了 ・「名品展」「小笠原三代」展示資料の確定、	B		B	
		○ 巡回展「長野県の考古学」の資料調査、共催機関との打ち合わせ ・各連携機関と企画・テーマをすりあわせ、広報等充実、打ち合わせは各連携機関とも年5回程度実施 ・1ヶ月で来館者約1,000人	・市町村教育委員会、埋蔵文化財センターと共同調査を進めるとともに、テーマ展示を「弥生時代」とし、学史的に貴重かつ最新資料を展示また各館にて地域展示を実施 R1年度開催予定の後期土偶展に関する準備 歴史館 3月17日～6月3日(56日間:8,485人) 南信会場 7月13日～8月2日(24日間:492人) 中信会場 8月11日～9月17日(34日間:1,406人) 東信会場 9月29日～11月25日(50日間:1,455人) 満足度80%	A	・テーマ展示よかった。 ・館外会場では、毎年巡回展を楽しみにしているとの意見が多い。 ・各会場で、地域の資料を扱った地域展示を行い好評であった。(平成29年度アンケート意見の反映)	A	
		○ 文献史料の収集・整理・保存 ◇ 行政文書、県報、行政資料 ・新規行政文書(年間約数百冊)の目録作成 ・県報、行政資料の整理 1,000点以上 ・公開・非公開判定(判定見直しを含む) 1,000点以上 ・未整理現代史料等の整理	◇ 行政文書、県報、行政資料 ・新規収集資料の選別・収集・整理 行政簿冊 587冊、県報 122件、行政資料 371冊 ・行政文書の公開非公開判定の実施 2,573冊 ・未整理現代史料等の整理 寄贈資料の登録・配架 酒井三重氏資料ほか 8件 移管資料の登録・配架 県立長野図書館ほか 3件 長野県労働組合評議会資料(昭和27～63年)916冊 長野県労働組合評議会資料(昭和32～平成2年メーデーほか)写真・ネガ 56件 地区労働組合評議会・単産労働組合 66冊 ・保存 長野県史写真フィルム(35mm)の洗浄・複製製作 継続事業 小県郡 486本	A	-	A	
		◇ 古文書 ・新規史料の収集 3,000点以上 ・未整理史料整理 7,000点以上 ・公開 5,000点以上	◇ 古文書 ・新規史料の収集 18件 8,374点(概数分含む) ・未整理史料の整理 38件 20,764点 ・公開 35件 9,427点	A	-	A	
		○ 考古資料の保存処理 ・収納木製品の保存処理(1,000ポイント)(PEG槽へ投入、濃度アップ、取り上げそれぞれ1回の作業を1ポイント扱いとして換算) ・写真資料の保存(フィルムのデジタルデータ化)は35ミリポジフィルム年間8,000枚を実施 ・金属製品に関しては依頼に対応	・収納木製品の保存処理 3,100ポイント ・赤外線観察=3件(8点) X線透過撮影観察=3件(211点) 依頼100%対応 ・写真資料の保存(デジタル化) 6,600枚 高画質のデジタル化の使用を見直し1枚あたりの単価を下げる。 ・金属製品の依頼対応 100%対応 満足度100%	A		A	
		○ 館設定研究テーマの調査・研究 ・テーマ「城郭・城下町研究」 回数 年2回 内容 ・市町村教育委員会と城郭・城下町研究会を年1回開催、県外研究者との意見交換を実施	・「長野県近世城郭・城下町研究会」を1回開催 2月 松本城の見学と調査研究成果の発表 満足度80%	B	・城郭研究会では、県内の様々な城郭の見学をふまえて、研究会を開催してもらいたいとの意見が多い。	B	
	・テーマ「信州黒曜石文化の研究」 回数 年2回 内容 ・黒曜石原産地とそれに関する遺跡の実態説明成果 展示 H30年企画展、H31年以降、関連市町村巡回	・「信州黒曜石文化研究会」を1回開催 10月 歴史館で開催 研究成果をH30の秋季企画展で展示。 ・研究会に関連し第2回考古学セミナーにて東京国立大小野名教授が黒曜石原産地の保存と活用について講演	B	・もっと黒曜石のことを詳しく知りたいなどの意見が多い。黒曜石研究は縄文土器研究と併に根強い人気がある。	B		
	・(新)テーマ「長野県の土偶」 回数 年2回 内容 ・市町村教委・博物館担当者と共に県内土偶データ作成	・「長野県の土偶研究会」を2回開催(7月20日、3月15日) 市町村教委・博物館、埋文センターと共同による「長野県の土偶」の調査・資料集、全市町村にアンケート調査後、不足・修正を上記委員が実施	A		A		
	史料資料の保護・活用に取り組み、保護思想を啓発します	○ 文献史料保存活用講習会の開催 ・開催 年3回 参加者100人(前年並み) ・満足度 80%	・3回開催 参加者数 115人 ・満足度 100%	A	・総務課等文書管理の管轄職員にも参加して聞いてもらえればよかった。 ・複文書は当文書館及び故郷の町でも有しているのでもっと勉強になった。丁寧な講義でわかりやすかった。	A	
		○ 考古資料保存処理講習会の開催 ・開催 年1回 参加者20人	・考古資料保存処理講習会:11月30日開催=参加者数18人 =赤外線、X線、実態顕微鏡を応用した資料観察の手順と読影方法(前年度の市町村担当者の要望を受けて) 満足度100%	A	・持参した資料を用いた実践研修でよかった。	A	
○ 防災・災害の対応 ・事例研究や他県の体制・対応を参考にした研究実施 ・地震・台風等による被害の把握と支援の要不要確認(県博物館協会)		・第2回文献史料保存活用講習会で「災害と資料保全Ⅲ」をテーマとしたところ、県内外からの参加者あり	A	・予防が最大の防災対策であるという認識ができた。 ・松田館の火災とレスキューを契機に県の対応が進んでいることがわかった。	A		
長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します	○ 常設展の工夫 ・関係機関との連携 信大繊維学部 ・観覧者数 前年比85% 1か月半の休館のため ・満足度 80%	・信大繊維学部所蔵資料調査、近代系関係展示室のパネル作成 ・観覧者数 36,649人(H29 37,720人、前年度比 97.2%) 満足度 93.9%	A	・ボランティアや学芸員による解説が好評。 ・照明を明るくして欲しい、手に触れる複製品を増やしてなどの要望が多かった。	A		
	○ 企画展の開催 ・観覧者数 前年比85% 1か月半の休館のため ・満足度 80%	・観覧者数 26,848人(H29 25,780人 前年度比104%) 満足度 91.92%(H29 93.4%) ※企画展等別 ・巡回展「長野県の遺跡発掘2018」(4/1～6/3) 56日 8,485人 満足度 89.76% ・巡回展「長野県の遺跡発掘2018」伊那会場(7/13～8/2) 24日 492人 ・巡回展「長野県の遺跡発掘2018」塩尻会場(8/11～9/17) 34日 1,406人 ・巡回展「長野県の遺跡発掘2018」佐久会場(9/29～11/25) 50日 1,455人 ・夏季企画展「君は河童をみたか」(6/16～7/29) 38日 5,594人 満足度 90.91% ・秋季企画展「最古の信州ブランド黒曜石」(9/15～11/25) 62日 8,848人 満足度 90.15% ・冬季展「自然を見つめた田淵行男」(12/15～2/17) 50日 3,063人 満足度 94.55% ・巡回展「長野県の考古学」(3/16～3/31) 13日 858人 満足度 93.33%	A	・展示の対象を広げたことに対する評価が高かった。 ・子どもが喜ぶような企画がよかった。 ・ご覧の皆さまへのメッセージがよい。 ・ギャラリートークについては、好評かと逆に個人で鑑賞している人への配慮が必要との意見もある。 ・解説パネルが少ない、字が小さいなどの要望もある。	A		
	○ (新)ミニ展示の開催 ・「県歌50年」「信州の野球史」の開催	・「県歌50年 浅井 湧の書を見る」:26日間開催=965人 ・「信州の野球史」:32日間開催=996人	A	・県歌50年、夏の全国高等学校野球選手権100回記念に合わせた展示でよかった。 ・本格的な展示への希望があった。	A		
	○ 個別研究の実施 ・学芸部職員 1人1研究	・学芸研究会での研究発表(18件) ・研究紀要、ブックレット、歴史館版信州学などの執筆のための調査・研究を実施 内訳 研究紀要11件 ブックレット35件 歴史館版信州学 27件	A		A		
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	○ 親子歴史ふれあいコーナーの設置準備 ・設置箇所等の選定 ・H31年度の基本設計委託に向けた準備	・福井県や山梨県等の博物館視察等を通じて基本構想を検討し、展示業者の協力を得てレイアウト案を策定	C		C		
	○ 古文書講座の開催 ・開催 年25回 受講者900人 ・満足度 80%	・25回開催 受講者 延べ925人 満足度 92.1%	A	・先生方の講義の内容が深かった。 ・教材の選び方がよい。	A		
	○ ティーンズ古文書講座の開催 ・開催 年4回 受講者10人 ・満足度 80%	・4回開催 受講者 延べ28人 満足度 100%	A	・新しい知識が身につきました。 ・とても楽しくなる講座でした。	A		
	○ 考古学講座の開催、探訪会の実施 ・講座 開催 年4回 受講者300人 ・探訪会 実施 年1回 参加者40人 ・満足度 80%	・考古学講座 4回開催「テーマ「文化の画期について」(受講者数438人) ・探訪会 1回(参加者数42人) 満足度 100%	A	・時代の変化の画期がわかった。 ・遺跡探訪会では、黒曜石原産地の発掘現場と博物館見学の組合せがよかった。	A		
	○ (新)「県立歴史館の信州学講座」の開催 「やさしい信濃の歴史講座」と「歴史館ふるさと講座」統合 ・開催 前期4回 後期5回 受講者900人 ・満足度 80%	・県立歴史館の信州学講座 9回開催 受講者868人 満足度 88.97% 冬季に講堂が改修工事で研修室を会場としたため受講者減少	B		B		
	○ 企画展・季節展等講演会の開催 ・開催 年5回 受講者500人 ・満足度 80%	・夏季企画展 講演会1回、講座1回、イベント1回 受講者計523名 講演会・講座 満足度 94.28% ・秋季企画展 講演会1回、イベント日(ワークショップ、国際シンポジウム、コンサート他) ギャラリートーク4回 受講者計442名 講演会等 満足度 84.91% ・冬季展 対談1回(安曇野市)、ギャラリートーク3回 受講者計210名 対談 満足度 95.77%	A		A		
○ 信州学テキスト刊行 ・年1冊の刊行	・信州学 第2巻刊行	A		A			

基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	県民の生涯学習を支援します	○ 関係機関(他団体)との連携 ・ 博物館・美術館との連携した講座を開催する(年3回)。 ・ 長和町、明治大学(黒曜石研究センター)と連携し、海外からの研究者等の招致、シンポジウム等開催 ・ 田瀬行男記念館との連携による企画展の開催 ・ (新)近隣県立博物館との連携協定の締結 1博物館 ・ 考古学セミナー(県考古学会共催) 年2回 ・ 近世史セミナー(信濃史学会、信州近世史セミナー共催) 年1回 ・ 「歴史館パートナーの日」の開催(H29～) 年2回 ・ 県博物館協議会HPは本年度運用1年目。一般アクセス数年間20,000件	・ 連携講座 飯田市美術博物館 1回 受講者集20人 豊科郷土博物館 2回 受講者数136人 満足度 100% ・ 冬季展「自然を見つめた田瀬行男展」を実施 ・ 山梨県立博物館との連携協定締結 ・ 第1回考古学セミナー:6月3日開催=80人 ・ 第2回考古学セミナー:11月25日開催=32人(第1研修室) 満足度80% ・ 近世史セミナー 12月開催(受講者数131人) ・ 「KOAの日」開催 10月28日(日) 227人(関係者52) ・ 「長野都市ガスの日」12月15日(土) 280人(関係者33) ・ 県博物館協議会HPアクセス件数 43,345件	A	・ 長野県考古学会との共催で、長野県内のテーマに限らず、またより専門性の濃い内容でよい。 ・ 反面、身近なテーマでなく、難しいとの意見もある。	A	
		○ 出前巡回講座の開催 ・ 「県立歴史館の信州学講座」の上田市、箕輪町、諏訪市、松本市、飯田市で開催(年5回) ・ 「長野県の遺跡発掘2018」の伊那市、安曇野市、御代田町での巡回展開催に合わせた講演会等の開催 ・ 上記以外の出前講座 開催数90回 参加者数8,000人	・ 信州学出前講座 5回開講 受講者計298人 (上田市25人、箕輪町41人、諏訪市122人、松本市57人) ・ 長野県伊那文化会館(伊那市) 講演1回27人、展示解説2回13人 ・ 安曇野市豊科郷土博物館(安曇野市) 講演2回136人、展示解説2回23人 ・ 浅間縄文ミュージアム(御代田町) 講演1回60人、展示解説1回6人 ・ 計 講演4回223人 展示解説5回42人 満足度50% ・ 76回 延べ参加者6,123名 (平成29年度100回7,891人、平成28年度121回9,532人)	B		B	
		○ おでかけ歴史館事業の実施(H29～) ・ 下伊那・木曾地域で公民館5件実施 (事業周知のため公民館職員等へのデモ活動も含む。)	・ 7校17学級、公民館2館 415人に実施	B		B	
		○ 効果的な展示利用方法の開発 ・ 常設展示用学習シート(小学校)を活用したプログラム提供	・ ワークシート(歴史館まなび隊・学習シート) 利用校136校(利用率53.8%) 平成29年度145校(利用率53.6%)	B		B	
	学校教育を支援します	○ 学校見学の展示解説の実施 ・ 希望校100%実施	・ 希望校受入率 100% 実施学校数248校(但し、雨天時のみの学校は含まない)	A		A	
		○ 学校見学のバックヤード探検の実施 ・ 希望校の90%以上の受入	・ 希望校受入率 96.8% 実施学校数212校 (見学時間重複等でお断りした学校数7校、集中日は電話問い合わせ段階でお断りする例がある)	A	・ 好評を維持している。	A	
		○ 博物館実習・職場体験学習の受入 ・ 希望者の90%以上の受入	・ 希望者受入率 100% 博物館実習3人、県庁インターンシップ3人 中・高生職場体験 9校21人(延べ54人)	A		A	
		○ 教員研修への協力、実施 ・ 希望者の100%の受入	・ 希望者受入率 100% 教材研究研修(県総合教育センター) 12人 免許更新講習(信州大学) 3回3日間 計140人	A		A	
		○ 出前授業(講座)の実施 ・ 実施25回 参加者1,000人	・ 12回 延べ参加者319人	C	・ 歴史館から遠い地域からの要望が多い。	C	
		○ おでかけ歴史館事業の実施(再掲) ・ 下伊那・木曾地域で20回(1クラスを1回)実施 (事業周知のため教職員へのデモ活動も含む。)	・ 7校17学級、公民館2館 415人に実施 ・ お出かけ歴史館事業広報のための学校訪問活動 2日間8校	A		A	
歴史情報を提供します	○ 史資料の閲覧 ・ 整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等に掲載、周知 ・ ブログ更新 6回(2ヶ月に1度)	・ 整理が終了した古文書等の公開 整理を終えた古文書群は直ちに公開手続きを取り、ホームページ上でその都度データ更新を実施 (公開件数 9,427点、公開回数100%) 古文書公開ブログ 7回更新、新資料の情報を積極的に公開	A		A		
	○ ホームページによる情報提供 ・ アクセス数(年間 72,000件) ・ ホームページ上で、絵図地図・企画展等の情報を提供	・ アクセス数 76,369件(平成29年度83,979件) アクセス数急増、外部から改ざんによるまれ休止期間あり (7月15日～9月13日)あった	B		B		
	○ 歴史館情報のマスコミへの周知 ・ 信濃毎日新聞社「しの歴史再現」への連載 ・ 企画展、講座等の情報発信(新聞、情報誌等に掲載)	・ コラム「しの歴史再現(信毎)」50回 ・ 新聞イベント欄、新聞有料広告、雑誌・情報誌、ラジオ、ケーブルテレビ、有線放送等で情報発信	A	・ 信毎コラムを見て展示を見に来たと云ってくれる人が多くなった。	A		
	○ ケーブルテレビによる主催講座の発信 ・ 提供講座数 9(信州学講座)	・ 提携講座9で実施	B		B		
楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします	○ 体験イベントの開催	・ 館内 5回実施 5月5日「歴史館でこどもの日」(515人) 総合情報課 勾玉づくり・プラ板づくり 247人 考古資料課 縄文人になって遊ぼう・バックヤード探検268人 7月28日「歴史館で夏休み」(222人) 総合情報課 勾玉づくり・プラ板づくり 120人 考古資料課 縄文人になって遊ぼう・バックヤード探検102人 11月3日「森将軍塚まつり」(572人) 計786人 総合情報課 勾玉づくり・プラ板づくり 306人 考古資料課 縄文人になろう 480人 11月18日「子育て家庭優待日」どきmodネ作り 41人 11月23日「黒曜石で星降る森のリースを作ろう」 23人 ・ 館外 なし	A	・ 定着してきており、チラシ配布以前からの問い合わせが増えている。	A		
	○ 古文書愛好会の育成と活動支援 ・ 活動者数 600人(延べ) 例年並み ・ 館蔵文書を読む会の成果本1冊刊行	・ 参加者数 延べ 721人 ※活動内容 ・ 館蔵文書を読む会 7回開催 参加者数 38人(延べ209人) ・ 古文書探訪会 参加者数 32人 ・ 古文書演習 夏季 5回 参加者数 35人(延べ 124人) 冬季 18回 参加者数 32人(延べ 356人)	A		A		
	○ 運営サポートボランティアの育成 ・ 展示解説・体験ボランティアの募集・養成、イベント運営への活用を推進 ・ 常設展解説等館運営ボランティアの積極的な活用 ・ ボランティアルームの設置 ・ ボランティアと職員の意見交流会の実施	・ 募集 歴史館HP、チラシ(千曲市回覧、当館設置) ・ 新規登録者12人 ・ ボランティアルームの設置 ・ 解説ボランティア(解説者延数229人 利用者数1,369人) 日曜解説 毎日曜日と祝日と、学校・団体への解説28回 ・ 体験ボランティア(延数69人) こどもの日、夏休み、森将軍塚まつり、クリスマスリース作り ・ 作業ボランティア(136回) 木器処理作業(88回)・文献整理作業(48回)	B	・ 解説ボランティアは非常に好評	B		
○ 利用者アンケートの活用 ・ 来館者アンケートの意見の反映	・ アンケート回答率 1.49% (前年度 2.23%)	C		C			